

## ⑳ 大河津分水通水100周年・関屋分水通水50周年記念 未来につながる事業

受賞機関 国土交通省 北陸地方整備局 信濃川河川事務所  
国土交通省 北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所  
大河津分水通水100周年・関屋分水通水50周年未来につながる事業実行委員会

**キーワード** 大河津分水、関屋分水、周年事業、地域の自発的かつ協働的な取組、多様な団体によるインフラツアー

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

大河津分水通水100周年・関屋分水通水50周年記念事業の取組。行政側からの発信のみではなく、NPO、商工会議所と連携し、地域の小学生も参加、発信するなど地域協働型での周年記念イベント実施により、河川事業への地域の理解をより高める広報活動とした点や、従来までの継続的な取組が地域協働型周年行事を推進していること、「歴史を知る」、「つながりを創る」、「未来を考える」というコンセプトを明快にしながらか推進していることが評価された。

### 1. はじめに

大河津分水(1922年8月25日通水)と関屋分水(1972年8月10日通水)の2つの分水は、越後平野の人々の暮らしを劇的に変え、県都発展の原動力となり、今も私たちの暮らしを支え続けている。大河津分水、関屋分水がそれぞれ100周年、50周年を迎える機会に、信濃川の豊かな恵みに感謝し、先人の偉業を讃えるとともに、大河津分水、関屋分水が地域の皆様により深く理解され、未来につながることを願って『大河津分水通水100周年・関屋分水通水50周年記念未来につながる事業』を行った。

### 2. 事業の概要

1stステップとして、分水の歴史や信濃川の恵みを再認識することを目的に、出前講座やパネル展等を流域自治体で展開することで周年事業の機運醸成を図り、地域の自発的な事業展開のきっかけを提供した。



2ndステップとして、多くの人々が参集し川への想いを寄せる場づくりを目的に、流域の9自治体で歴史や自然・利活用といった川の多様な観点を再認識する「分水講演会」を開催し、6つの博物館等と連携し、川と街、川の生物、治水の歴史等をテーマにした特別展をリレー形式で開催、住民がお勧めする川のスポットの募集等を実施した。また、2つの分水の通水日には、現地でのイベント開催も行う等、1年を通じて多くの人々が集う機会を創出した。

3rdステップとして、川と社会及び人との関わりを考え、共感する仲間づくりを目的とし、小学生が理想の川の未来を発表する分水サミット、流域の9自治体の首長が一堂に会し、川と地域の未来を語り合う記念シンポジウムを開催した。



自治体首長が一堂に会した記念シンポジウム

### 3. 事業の成果

場や仲間づくりを重視した段階的な事業展開により、水辺を利用した飲食イベントの開催、治水事業のコミック化、自治体誌や業界紙・フリーペーパーでの連載、独自のグッズ開発・販売など地域の自発的かつ協働的な取組が次々と生まれた。地域の取組の効果もあり多くのメディアに取り上げられるとともに、発信された情報を基に新たな事業が展開されるなど、相乗的に河川事業に対する地域の人々の理解が促進された。

### 4. おわりに

本事業後も協働体制が継続し、小学生の河川学習発表会の開催、多様な団体によるインフラツアーが企画されるなど、河川事業の理解から河川の利活用に発展している。協働体制を維持しつつ、地域団体等の事業展開をサポートしていきたい。